

## 電気柵管理のポイント

獣害対策として電気柵は効果的な対策の1つです。この時期は農作物も少なく、管理がおろそかになりがちですが、効果を発揮させるためには通年で機能させることが重要です。今回は電気柵を管理する上でのポイントを紹介します。

漏電防止にはこまめな除草を！

### ① 漏電している場合

- ・電牧線が金属や植物、地面に触れている。
- ※電牧線が雪に埋もれた場合も漏電の恐れがあります。
- ・焦げている箇所やパチパチ音がする。



#### [対処方法]

- ・電牧線が弛んだ箇所を補修する(例：線を結う、結束バンドで縛る等)。
- ・電牧線が切れかかっている箇所は新しい電牧線で繋ぎなおす。
- ・電牧線に接触しているものを取り除く(雑草の防除、枯れ枝等の除去)。

### ②漏電していないのに電気柵に電気が流れない場合(ソーラーパネル式の場合)

例) 昼間は問題ないが深夜、早朝に電気が流れない等

- ・バッテリーが充電不足の可能性がある。

#### [対処方法]

- ・バッテリーランプは正常か確認し、テスターで電牧機の電圧を確認する。
- ・ソーラーパネル面の汚れを落としきれいにする。
- ・電牧機だけの状態で太陽にあてて充電する。
- ・充電器でバッテリーを充電する(※規格が合っているか確認してください)。

テスターで定期的に電圧の確認を！

### ③バッテリーが劣化している場合。

- ・バッテリーを充電しても改善が見られない。
- ※一般的なバッテリーの寿命は2～5年。

#### [対処方法]

- ・バッテリーを交換する。

※特に悪天候と漏電が重なってしまい完全に放電してしまうと、バッテリーの寿命が短くなってしまいます。このため、日々の管理をしっかり行いましょう。



峡南農務事務所 農業農村支援課

(峡南地域普及センター)

生産振興担当 055-240-4131